

パリが映した世界の姿

戦争の影も色濃く



ボクシング女子75キロ級、難民選手団初のメダル獲得を決めたシンディ・ヌガンバ選手（AFP時事）



女子走り高跳びで優勝したウクライナのヤロスラワ・マフチフ選手

戦争の影も色濃く映し出された。ロシアによる侵襲が続くウクライナからの選手は、夏の大会で最少という140人が出場。過酷な状況下でも奮闘した。16年リオデジャネイロ大会で結成された難民選手団は、今回初めてとなるメダルをボクシング女子で獲得。想像を絶する苦難があっても五輪で輝く姿は希望の光となった。

ボクシング女子では選手性の性別を巡り、誤解や決めつけによる誹謗中傷が問題視された。JOCもSNSなどで選手への言葉の暴力に対し、決然とした態度を表明した。五輪が社会の鏡である以上、避けては通れないテーマが至る所で垣間見えた。

日本は金20個のメダルラッシュ



体操男子団体総合で金メダルを獲得し、喜ぶ日本チーム



飛び込み男子高飛び込み決勝、玉井陸斗選手の6回目の演技（連続写真）



女子やり投げ決勝、北口榛花選手の1投目



レスリング男子グレコローマンスタイル77キロ級決勝で攻める日下尚選手（上）



柔道男子66キロ級決勝で技ありを奪う阿部一二三選手



フェンシング男子エペ個人決勝の加納虹輝選手



レスリング女子53キロ級で金メダルを獲得した藤波朱理選手



近代五種男子で銀メダルを獲得した佐藤大宗選手

金20個、総数45個は、いずれも海外開催で史上最多。金メダル数は日本オリンピック委員会（JOC）が掲げた目標に匹たり。レスリングで獲得したメダル11個のうち8個が金。東京大会の5個から大きく伸ばした。男子グレコローマンスタイル77キロ級の目下、尚選手は23歳、女子53キロ級の藤波朱理選手は20歳と若手が多く、レスリング界の未来につながる活躍だった。

フェンシングは金2個を含むメダル5個。近代五種と飛び込みで日本勢初のメダルが生まれ、躍進を感じさせた。

2024年8月26日発行

パリ五輪が開催 「開かれた大会」混乱なく

次回28年はロス



開会式でセーヌ川を進む日本選手団。奥はエッフェル塔



女子マラソンでベルサイユ宮殿を背に力走する選手たち

第33回夏季オリンピック。パリ大会は11日夜、パリ郊外サンドニのフランス競技場で閉会式が行われ、閉幕した。選手数は史上初めて男女同数となり、五輪の理念である「ジェンダー平等」を反映。17日間の会期で200を超える国・地域と難民選手団の選手約1万1000人が参加し、新競技フレイキン（ブレイクダンス）を含む32競技329種目で競い合った。

パリでは100年ぶり3度目の開催。「広く開かれた大会」をスローガンに掲げ、開会式は市内中心部のセーヌ川を舞台に史上初めて競技場外で実施。ベルサイユ宮殿など名所も競技会場となった。今回は2028年、ロサンゼルスで開催される。

